



ぼくは アフリカにすむ
キリンと いいます



作／岩佐めぐみ
絵／高島 純

ペンギンくん、
 お返事ありがとうございます。
 きみのことがもっと
 知りたいたので
 おしえてください。
 たとえばどんな色を
 しているか、とか。

キリンより



「先生、ぼくは何色ですか？」

ペンギンはクジラにききました。

「おおまかにいうと白と黒。」

「ぼくもそうおもいます。」

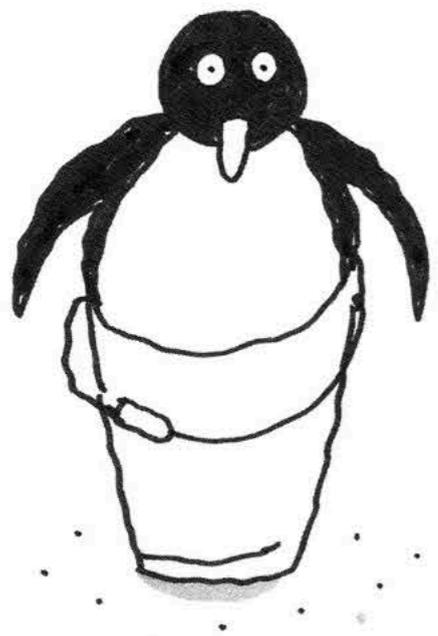
そういって、ペンギンはどこかへきえたかとおもうと
 ガランコ、ガランコと、大きなバケツをもってあらわれました。
 そしてこんどはその中に入り、

「先生。もういちど見てください。ぼくは何色ですか？」
 と、たずねるではありませんか。

「おなじじゃよ。白と黒だ。」

「ありがとうございます！」

ペンギンはにっこりしています。



たいくつなキリン、はじめての手紙を書く



ここはアフリカの草原。

ここに一頭のたいくつなキリンがすんでいました。

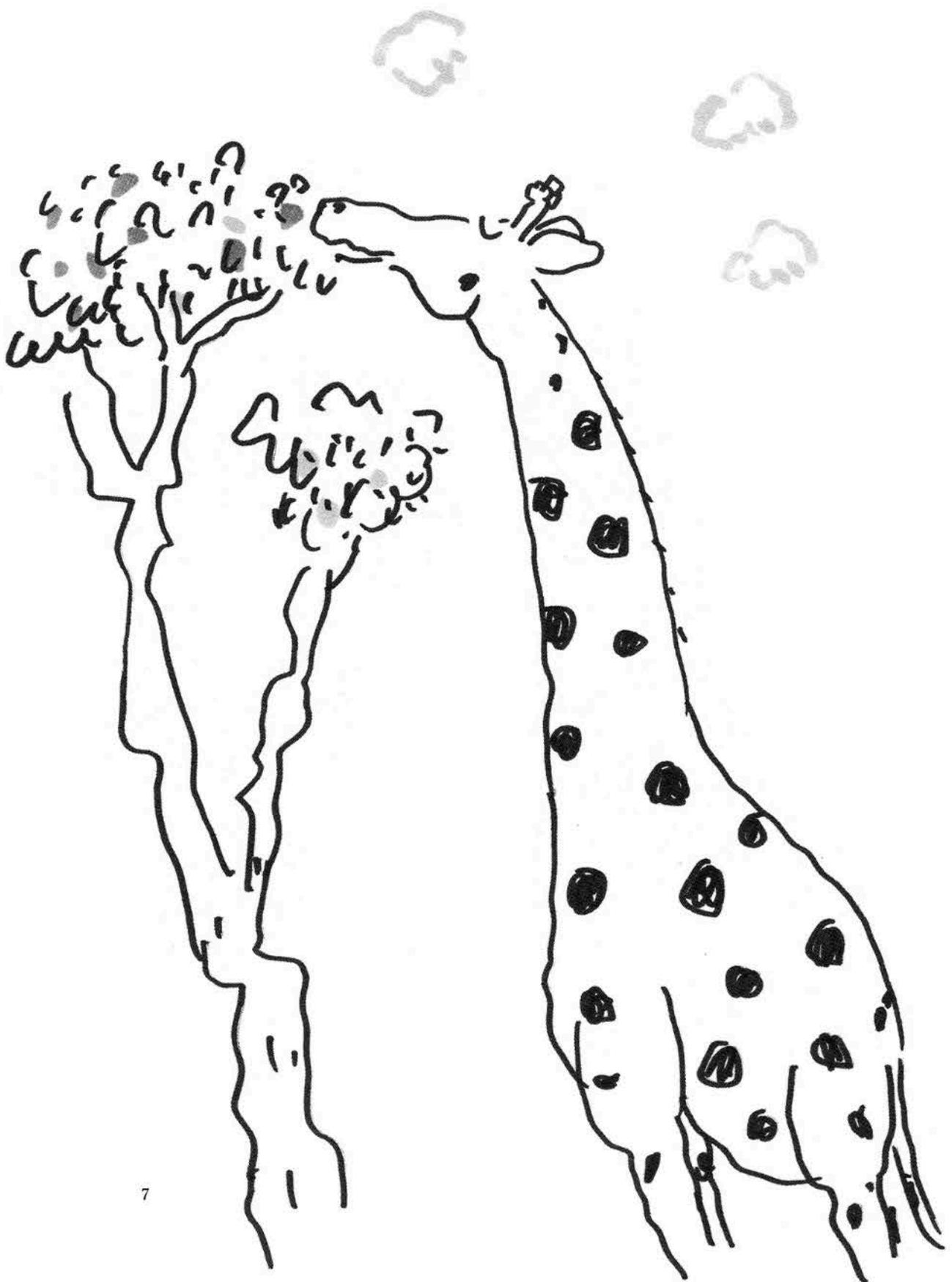
きょうも空はすみきっていて、まっさおです。

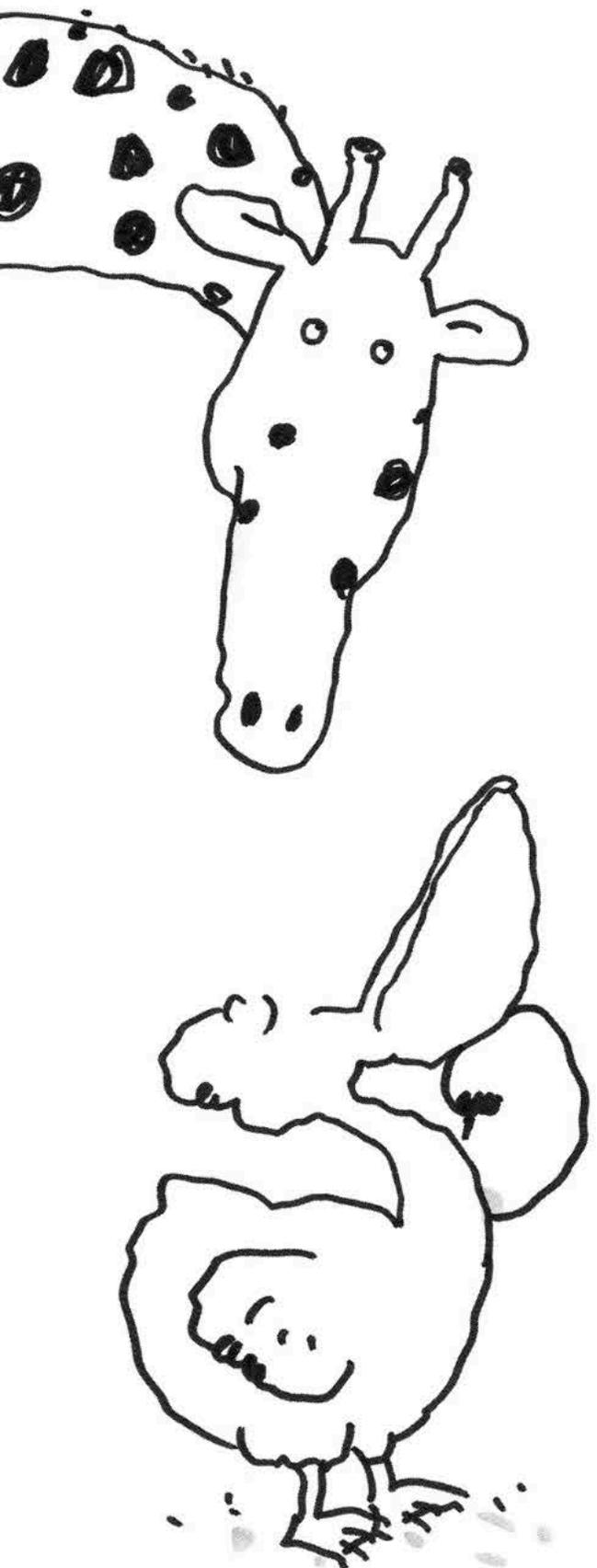
シユークリームにそっくりな雲が、ぷかぷかとういています。

草原をわたる風はやさしく、キリンの大好きなアカシアは

たべほうだい。

いうことなしの生活じゃないかって？ そのとおり。





「つばさはあるけど小さいのか。かざりみたいなものかな。
ペリカンくん、どうおもう?」
「うーん。およぐのはとくいだったよね。でもとべない。
歩くことはできるんだらうか?」
ペリカンもいろいろおもいめぐらしています。

